

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

② 施設・事業所情報

名称：横浜市洋光台第二保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：園長 綿貫麻美	定員（利用人数）： 109(112)名
所在地：横浜市磯子区洋光台4-12-14	
TEL：045-831-3928	ホームページ：
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 1979年6月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：横浜市	
職員数	常勤職員： 28 名 非常勤職員 25 名
専門職員	保育士：園長 1 名 看護師： 1 名
	保育士：主任 1 名 調理員： 4 名
	保育士： 32 名
施設・設備 の概要	保育室： 6 室 調理室： 1
	沐浴室： 1 事務室： 1
	トイレ： 3 職員休憩室： 1

③ 理念・基本方針

【保育理念】

《子どもの最善の利益を守る》

一人ひとりの子どもたちが、自分を「かけがえのない存在」として感じ、自信を持って生きていけるように

【保育方針】

- ・一人ひとりを大切に
- ・共に育つことを大切に
- ・共に育てる姿勢を大切に

【園目標】

- ・心豊かな子
- ・健やかな子
- ・自分で考え行動できる子

【保育姿勢】

- ① 一人ひとりが意欲を持って主体的に生活を楽しめるよう、個々の発達過程を大切に保育する。
- ② 子どもたちが仲間の中で育ちあっていく過程を大事に保育する。
- ③ 保育者は子どもたち一人ひとりの姿に共感しながら、感性を豊かにする生活を保障し、専門性の向上に努める。
- ④ 家庭との連携、職員間の連携を密にし、信頼関係を築きながら、共に育てていく姿勢を大切にする。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】

横浜市洋光台第二保育園は、1979年6月1日に開園しています。園舎は鉄骨造りの平屋建てで、902.6㎡の園庭があります。0歳児（産休明け）から就学前児童を受け入れ、定員は109名で、現在112名が在籍しています。園へのアクセスは、JR根岸線の洋光台駅から住宅街を5分ほど歩いた場所にあります。近隣には自然豊かな大小さまざまな公園があり、園庭遊びのほか、子どもの年齢や活動に応じ園外活動コースを選んでいきます。ログハウスやこども科学館などの社会資源も徒歩圏内にあります。子どもたちが経験から学ぶことを大切に異年齢児との関わり、食育活動など取り組んでいます。

【園の特徴】

幼稚園、小学校、ほかの保育施設が近隣にあり、交流しています。園がある洋光台地区は、自治会のお祭り、キャンドルナイト、ハロウィンなどイベントが盛んで、園も地域の活動に積極的に協力・参加をしています。

園は、育児支援センター園として、親子で気軽に集い、交流や活動のできる場にもなっています。さらに磯子区の保育資源ネットワーク事務局としての役割もあります。各保育資源のつなぎ役として保育の質の向上についてネットワーク事業研修や園外研修の企画実施などを発信しています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年6月24日（契約日） ～ 2021年2月26日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2 回（2015年度）

⑥ 総評

◇特に評価の高い点

1. サービスの質の向上に取り組む姿勢

今年度、第三者評価の自己評価を行うにあたり、評価項目の内容評価の全20項目について全職員で意見を出しあい、求められている保育の本質について議論をし、これまで以上に理解を深めました。項目ごとの意見を担当職員がとりまとめ、その後園内研修の場で一項目ごとにプレゼンテーションをし、再度全職員で共有を図りました。その後プレゼンテーション資料は園内に掲示し、確認ができるようにしています。第三者評価受審を良い機会と捉え、福祉サービスの質の向上に組織で真摯に取り組む姿勢がうかがえます。

2. 全職員で行っていく保育

職員は、保育の実践にあたり、子どもの心の育ち・意欲・興味などをよく観察しています。子どもが「できた」「できない」でなく、次につながっていくよう常に話し合いや確認をしています。日々子どもの育ちや保育の質の向上に結び付くよう、年度途中であっても年間指導計画の大幅な見直しを行っています。また、子どもの記録の集大成である保育所児童保育要録は、入園から卒園まで職員全員でリレーして育ててきた内容を記録して、全職員で確認、チェックをしています。

3. 地域との良好な関係

子どもたちの園生活は地域との関わりが密接です。近隣の幼稚園、小学校やほかの

保育園との交流、お話のボランティア来訪、地域ケアプラザ訪問、公園清掃参加、園で行っている育児支援事業（交流保育、給食体験など）や行事（七夕、新年子ども会など）等々を通じ、子どもたちは地域のさまざまな年代の人々と交流しています。洋光台地区のイベントのキャンドルナイト協力のほか、ハロウィンでは子どもたちが商店を回っています。民生委員と連携した地域の高齢者へ年賀状を送る取り組みもあり、地域の中で子どもが育っています。

◇改善を求められる点

1. 保護者への情報提供のさらなる工夫

保護者に園から伝えたいこと（理念・目標、事業計画など）の内容を分かりやすく説明し、理解を図る工夫に関しては引き続き検討が必要と考えています。今後の取り組みが望まれます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

こどもの最善の利益を第一にした保育の実現に向けて、常に保育の質の向上をしていく事を大切にしています。毎年、保育所の自己評価を行っていますが、5年ごとの第三者評価受審により、日々の保育を客観的に評価していただき、保育の質を高め、時代のニーズに合った保育を提供できるより良い保育園にしたいと思いました。

前回、平成27年度に受審した時とは職員も入れ替わり、新しいメンバーが主になりました。また、評価項目も共通項目65項目と内容評価20項目という新しい評価項目となり、新たな気持ちで全職員が評価項目1つ1つを自己評価する事から始めました。一人ひとりの自己評価を集計し、保育所の自己評価を決定して、全職員で共有することにかかなりの時間をかけました。特に、保育内容に関する20項目については、すべての職員の意見を担当職員が取りまとめ、一項目ごとにプレゼンテーションし、全職員で保育全般の学びを深め、共通理解や共有を図る良い機会となりました。これらの取り組みを通して職員個々の能力の向上、組織力向上をすることが出来ました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、緊急事態宣言がだされるなど、歴史に残る一年となりました。新しい生活様式を取り入れ、日々の保育や行事のあり方など常に検討し、保護者の方々にご理解を頂きながら、全職員一丸となって取り組めたのも、第三者評価受審で考え方を共有したことが大きいように思います。

最後になりましたが、保護者の方々には保護者アンケートなどご協力ありがとうございました。より一層のコミュニケーションと連携を深めていきたいと思っています。評価機関の皆様には、共に考える視点で丁寧に見ていただきありがとうございました。今回、高く評価して頂いた点は引き続き継続し、課題となった点は、より良い方向を目指して全職員で改善に取り組んでいきたいと思っています。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり